

【担当課】 社会教育課

【検証する取り組み名】 第9条 18ページ 地域学校協働活動の体制整備(コミュニティ・スクール ※以下CSと表記)

	平均	委員評価欄
◎取組推進方針	4	【内容/スケジュール/方向性】取組内容について、目的達成、課題を解消していくことができそうか。
◎取組状況など	4	【取組んだ内容/実績】取組んだ内容及び実績について、目的が達成できたか。
		<p style="text-align: center;">市民の役割、市民ができること</p> <p style="text-align: center;">行政の役割、行政がやるべきこと</p>
◎改善点、不足する部分など、見直すべきところがあれば、具体的に挙げてください。		<p>②先進校(2校)の地域関係者は、課題も成果も遠慮せず本音で話し合う必要があると思います。どうしても、努力して進めている担当者や学校に対して、甘めの評価をしてしまいがちですが、まだまだスタートしたばかりなので、課題があっても当然。その課題を少しずつ改善していくことにやりがいを持って参加していけると良い。大変な仕事だと思いますが、よろしくをお願いします。</p> <p>③地域の子ども育成にかかわるにあたっては、自然体かつそれなりの地域力が求められるものと思われる。地域住民が自覚をもち、その力を培うためにも、まず個々の活動団体の活性化を図り、そのうえで有機的な結びつきを進めるのが効果的かと。スタート時は学校主導だが、徐々に並進できるよう地域としてもビジョンを共有できるとよい。</p> <p>④いろいろな職業を経験して退職した地域住民がたくさんいます。子どもたちがやりたいこと、子どもたちにやらせたいことが一致すれば、指導できる方がありますので、情報を共有したいと思います。</p> <p>⑤地域と学校の連携、協働について、徹底的な意見交換を行い、子どもたちのためにできることを模索すること。</p>
※「2. 取組状況など」の設問に対する評価で1~3を選択された場合、特にご記入ください。		<p>②学校教育課と社会教育課の2つが協働で進めるメリット、役割分担を明確にすると良い。初めて話を聞く人には分かりづらい。この問題が起きた時、それはどちらの課に相談したらよいの?という質問をされたとき、私もすぐに答えられませんでした。</p> <p>③やはりCSの仕組みの周知と、立ち上がったCSが機能するよう指導・支援を続けられたい。とりわけ人材の不足する地域には、負担軽減の方策等についてのアドバイスを、また、活動が進むにつれて連絡や広報のための予算もふえるかと思われるので通信連絡費をはじめとする財政支援がなされるとよい。</p> <p>④何らかの組織にいるものは、学びの機会が多いのですが、それが住民ひとりひとりに伝わりません。区長から班長へ班長から各家庭へと伝わってほしいと思います。特に防火については、いつどんな行動をとるかが大切なので。</p> <p>⑥積極的にかかわり、市民を先導すること 定着するまではリーダーシップは市にあると思います。</p>
新しい取組の提案などがある場合、アイデアをご記入ください。		<p>③現在は小学校区ごとのCSの立ち上げ段階が、幼・中へ立ち上げが進んでいくと、中には複数の学校・園が連携する場面も出てくるかもしれない。その意味で、園・小・中へのアンケート調査は当を得ているものと思われるが、さらに互いの学校(CS)に求めるところなどの情報も収集し、共有できるとよいかと。</p> <p>④ふるさと瑞浪を心のよりどころでできる人を育てるため、歴史のかたりバ学習を子どもたちにもさせてはどうでしょうか。夏休みのラジオ体操を地域住民とともに行ったらと思います。</p>
5つの基本原則のうち特に該当する項目(3. 満足・2.可・1.不満)		<p>【このシートのまとめ】→→→答申の「素材」となる部分</p> <p>■地域への目的の浸透と取組の継続が大事 →地域と学校が同じ方向を向いて子どもの成長を支援していく</p> <p>■地域、学校双方にとって負担を過度なものにしないことが大事 →例えば事務スタッフ、コーディネーター等の雇用、行政から負担軽減策等のアドバイスなど</p> <p>■行政の支援としては・・・ →①立ち上げ・定着までの支援 ②継続的な指導・アドバイス ③財政支援など</p> <p>■地域と学校、学校間で、成果も課題もきちんと話し合うことが大切</p> <p>■有機的な結びつき、話し合いを通じて、少しずつ改善していく。肩肘を張らないスタンスも大事!</p>
	平均	
市民主役の原則	2.8	
市民参加の原則	2.8	
協働の原則	2.5	
情報共有の原則	2.3	
効率性の原則	2.0	
自由意見コメント		<p>①学校へのニーズ調査、立ち上げプロセスの評価などCSの立ち上げに向けての側面支援として、有意義な取り組みだと思えます。学校が求めるニーズと地域ができることのギャップがかなりあるように感じました。地域づくりがどう進んだのかについては、よくわかりませんでした。</p> <p>②釜戸地区も稲津地区もすばらしい方がリーダーとなって事業をひっぱっていると思います。人選はとても良いと思います。地域のどこまでの人がこの事業に注目しているかがなかなか伝わってこないのが、このことが「情報共有の原則」に当てはまる前提で、不満と評価した。釜戸地区や稲津地区の地域学校協働推進員の人が「大変だけど楽しい。やりがいがあった!」との声があるなら「全体評価」を3から4へ上げてください。→→→&lt;事務局注記&gt; 7/13担当課への聞き取りとR3両地区の学校運営協議会評価表、意見から判断し、+1しました。</p> <p>③地域学校協働本部及び地域学校協働活動推進員(コーディネーター)の市としての当面の扱いについては、地域の負担軽減、活動の効率化にもつながることから支持したい。また、「互いの顔が見える小規模校、校区だからこそできる」という声もあるが、CSに「こうあるべき」という定型はないと思われるので、大規模校においても、一気呵成にまとまったCSをと急ぐことなく、まずは少数でもあるいは校区内の狭い地区別でもよいので、子ども達にかかわる団体の「緩やかな結びつき」からスタートする方法でもよいという肩肘張らないスタンスも大事かと。</p> <p>⑤地域住民に今、CSはなぜ必要か、理解を得て地域・学校・家庭の連携を図る。</p> <p>⑥取り組みの目的の浸透が課題と考える。継続することが大切で「地域の子育て」という課題が月日がたつごとに、人が変わるとに形骸化していくことを防ぐ必要があると考える。会議でもわかりにくかったのは目的主旨の部分。いろいろな考え方の人がいる地域で取り組みが常態化するためには目的を失わない、共有することが重要と思いました。</p> <p>⑦今回ご説明頂いた中で「地域と学校が同じ方向を向いていくことが大切」というお話がありました。地域と学校が同じ立場同じ方向を向いて子供の成長を支援していくことはとても大切だと思えます。少子高齢化の進む中、子どもたちが、ふるさとみずなみの良さを知り誇りを持ち、地域とのつながりにより、ふるさとへの意識が高まり、今後の瑞浪市を支える役割を担ってくれるようになっていくと良いと思います。</p>
全体評価(平均)	3.8	<p>5.目標が十分に達成され大いに評価ができる</p> <p>4.目標達成に向けた取組ができている</p> <p>3.一部見直しが必要</p> <p>2.全体的な見直しが必要</p> <p>1.取組としての掲載不要</p>